

大分県 ハウスみかんにおける省力樹形（垣根仕立て）導入による生産性向上の取組

省力樹形

【基本情報】 大分県農業協同組合 柑橘研究会  
ハウスみかん部会 副会長 岩崎 宏幸

- ハウスみかん部会：71名（杵築市、国東市、佐伯市、津久見市）
- 園地情報：杵築市守江地区 ハウスみかん65a（うち垣根5a（品種：宮川））、露地30a＝計95a
- 労働力等：4名（家族）、繁忙期パート4～5名（2007年親元就農）
- 補助事業等活用状況：果樹経営支援対策事業（改植）



【取組の概要】

労働生産性向上を図るため、大分県開発の省力樹形・かんきつ垣根仕立て導入の取組

きっかけ

- 大分県では1980年代よりハウスみかん栽培を導入。
- ハウスみかんは単位面積あたり着果数が多く、露地栽培に比べ各種栽培管理作業について短期集中の傾向。（収穫時期は6月下旬から7月中旬と短期間）
- 特に着果後の**枝つり作業には多くの作業時間**が必要。
- 部会では、**労働生産性向上を図るため2010年代初頭より垣根仕立てを導入**し、現在3名、43aで取組中。



慣行（開心自然形）

杵築市



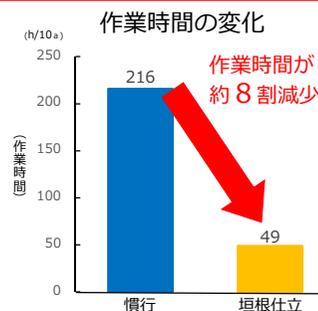
大分県

取組

- 省力樹形である垣根仕立てを、ハウスみかんで2018年に5a定植。
- 畝幅約2m、樹間1m、5aに約200本（慣行の4倍程度）の密植栽培。
- 掛かり増し経費**は、誘引用支柱・枝つりネット及び苗木代として**約30万円程度**。

メリット

- ハウスみかんでの基幹作業である**枝つりは、従来の10倍程度の早さ**で可能。
- 整列樹形のため**摘果や収穫作業に加え、防除作業も高効率化**。
- 防除作業も平面的に短時間で可能なため、農薬等**防除資材代も節減**。
- 密植のため**早期成園化**のほか、収穫2年目には通常の収量を達成。



垣根仕立て

課題

- 植栽本数が多いため、せん定や芽かぎ等に要する時間が増加。
- 増収を図るために、最適なせん定技術等を模索中。

今後の展開

- 最適なせん定技術の開発等により、慣行樹形に対し**収量の5割増**を目標。
- 本部会の垣根仕立てに取り組む3名で「垣根班」を編成し、栽培技術等について意見交換を行う中で、**最適な技術体系等構築**していきたい。